

第9回 清掃工場整備計画に関する検証委員会 会議要旨

日 時：令和7年9月26日（金） 14：00～15：30

場 所：東京区政会館 192会議室

<凡例> ●：外部有識者 ■：事務局

1. 開会

●座長

- ・ 前回の検証委員会では、これまでの議論をまとめた答申の案を示し、内容について議論した。
- ・ その後、全委員へご意見照会、修正依頼を2回行い、内容について座長・副座長で確認した。
- ・ 本日はそれらの結果を反映した修正案を用意したので、事務局より説明を聞いたのち、答申まとめに向けた、最終確認をしたいと思う。

2. 議事

(1) 答申案について

■区長会事務局次長

資料に沿って説明

●座長

- ・ 事務局の説明について質疑があればお願いしたい。

●委員

- ・ 「厨芥類」と「生ごみ」という表現が混在している。全体的に生ごみ関係の表記を統一していただきたい。
- ・ 施策を並べる際には、3Rの順序を意識するなど、表現の統一をしたほうがよい。
- ・ 23区は、「ゼロカーボンシティ特別区」の実現に向けた共同宣言を行ったことを明確に記載したことは、現状認識という点で大事なことだと思う。

●座長

- ・ 表記の件は、またチェックして整理したい

●委員

- ・ 「新たに取り組むべき施策」について、本文4ページ（総論）は、「厨芥類資源化推進」となっているが、本文14ページ（各論）では「厨芥類対策」となっており、整合性をとってほしい。中身は「対策」のほうが近いと思う。
- ・ 本文7ページ、プラスチックの内容の中で「一括回収」という言葉が出てくる。プラスチックの一括回収の意味は、製品プラス

チックと容器包装プラスチックの一括回収のことだと思うが、何を指すのか明確にした方がよい。10ページにも同様にあるので、修正をお願いしたい。

- 本文8ページ「焼却能力推計方法の妥当性」のところに「発熱量の差異の影響を極めて強く」と記載があるが、表現が強すぎるので「極めて」は不要ではないか。
- 本文11ページ「23区への提言（付帯意見）」の項目で、「新施設の設計においては・・・ごみ質による稼働率の低下は加味する必要がない」を追加しているが、前段では必要性を言っているので、明確に分けて、「必要であることを意見として付す。ただし新設工場の場合は必要がないことについても意見として付す。」という流れが良い。
- 本文14ページ「更なる取組み推進」の家庭ごみ有料化について、区民合意を得るうえでの説明の必要性の文章の中で、「人員確保」とあるが、家庭ごみ有料化には本来人員は関係なく、戸別収集を実施する場合に必要なことであるので、削除すべきである。
- ごみ量推計及び見直しの必要性について、本文10ページと11ページに同じ内容が出てくる。ここは、項目の（3）と（4）を分けて繰り返していると理解したが、ほぼ同じ文章が12ページの最後にもある。重複が気になるので、整理する必要があるのではないか。

●座長

- ・ 表記は整理させていただく。
- ・ 修正点は、概ね理解したので、その方向で調整していきたい。

●委員

- ・ 座長、副座長、事務局がきれいに意見をまとめて、いい案ができたと思う。
- ・ 全体を通し「廃棄物」と「ごみ」の表記が混在しているので、一定の整理が必要である。例えば本文14ページは「廃棄物処理にかかるコスト面」とあるが、「ごみ処理」でもいいのではないか。全体を通して修正したほうがよい。
- ・ 本文11ページの「ごみ量推計のメンテナンスについて」という項目名は、これだけを見て内容がわかるように表現を工夫した方がよい。
- ・ 全体として、廃棄物処理と温暖化対策には大きな関係がある。「ゼロカーボンシティ」「脱炭素宣言」というのは、ほとんどの自治体が目指しているなかで、自治体のCO2は、圧倒的に廃棄物処理、プラ焼却に伴い発生している。
- ・ 脱炭素を進めるためには、プラのリサイクル、分別収集を徹底する必要がある、そうすると焼却されるプラは減っていく。また、今回の3施策の中でも、古紙の工場搬入規制が進むと、焼却施設に行くごみは水分を多く含んだ燃えにくいものになっていくため、焼却処理は必ずしも合理的な手段ではなくなる。

- ・ 直ちに実現することではないが、将来のごみ量推計に基づいた議論を行っていることを踏まえると、中長期的にはメタン発酵プラントの導入なども加えるとよいのではないか。
- ・ GX実現に向けたカーボンプライシングもいずれ導入されることが想定され、様々な意味でCO2を減らす努力が必要な状況にある。
- ・ このような状況を踏まえると、「温暖化対策の観点から、脱炭素社会を実現するためには、徹底した資源化と、将来的には焼却処理以外の多様な処理施設の導入など、総合的な検討が必要」というようなことを、最後に追記してはいかがか。

●座長

- ・ 前半の文言修正等は、その方向で調整、修正したい。
- ・ 本文「はじめに」は、委員からの修正案により、この委員会のスタンスが大変明確になったと思っている。
- ・ その関係においても、本文の最後に、地球温暖化対策として、様々な施策を重視し、推進していくことを書くという点は、委員会の総意として共通認識を持てるのではないか。そういった方向で整理したい。

●委員

- ・ 温暖化対策の必要性追記の意見に賛成するが、「施設整備計画に用いるごみ量推計に対する意見」の意見詳細で「ゼロカーボン

シティ特別区」に触れており、その流れに組み込むことが良いのではないか。

- 本文14ページ、「事業者の厨芥類対策」で、「事業者の厨芥類対策」の「法」は「食品リサイクル法」と明確に記載した方がよい。
- あわせて、「回収の仕組みづくり」と「食ロス」は、3Rの順序を意識して並び替えた方がよい。
- 「家庭の厨芥類対策」について、「食品ロス削減の徹底を踏まえ」を追記して「コンポストの普及」と繋げたほうが、23区が取り組んでいる3R施策の順序と合うのではないか。

●座長

- その点は修正することとしたい。
- なお、コンポストの項目において「肥飼料」としているが、コンポストで生じるのは「肥料」であるため、表記を整理する必要がある。
- 家庭の厨芥類対策の中で、コンポストの普及促進と、生ごみ処理機の助成について触れている。この助成制度について、以前の議論の中で、その有用性について意見があったと思うがいかがか。

●委員

- ・ 基本的に、厨芥類についてはまず食品ロス削減があり、次に有効利用があると考え。生ごみ処理機は有効利用するものではなく、有効利用する、という意味では、肥料にするという書き方のほうがよいと思う。
- ・ 本文16ページ「その他」で「一部の清掃工場のバイオ系への転換」について提案しているが、家庭系のごみも入る中では、徹底した分別が前提となり、新たな収集システムの構築が必要と考える。
- ・ 欧米では、バイオごみと言われる、剪定枝と生ごみが入っている状態で収集されている。日本で実施する場合には、収集・処理体制を構築しなければならない。
- ・ この点、課題として触れる必要があるのではないか。

●座長

- ・ 意見を踏まえ、家庭の厨芥類対策はコンポストに絞り、その有効な活用方法の検討も必要、という方向で整理する。
- ・ 肥料化という意味での有効利用につなげるような文章にし、分別の課題については、答申の一番最後のところで、収集システムに関する記載を入れた上で整理させていただく方向でいかがか。

●委員

- ・ バイオ系工場は、全国的には多くの導入事例があり、多くは通常の収集で対応し、工場で分別している。また乾式メタン施設を作り、通常の収集で実証を行っている自治体の例もある。
- ・ 乾式では多少の混在には対応できるので、必ずしも徹底した分別収集が必須ではないと思うので、その辺りも考慮する必要がある。

●委員

- ・ メタン発酵は、どのくらいガスが回収されたかの結果しかなく、どのくらい電力やエネルギーを消費しているかという数字がほぼないため、施設全体としてはマイナスである可能性もある。パフォーマンスが明確ではなく、プラスであるという保証がない。
- ・ 焼却処理とメタン発酵の両方をやることはできるが、全体の中で何%がメタン発酵で処理されているかという問題がある。
- ・ 乾式メタン発酵の場合でも、収集方法が異なっていると思うので、効率良く処理するためには、処理システム全体を変えない限り、実現できないのではないか。

●委員

- ・ 大阪万博では、発生抑制やリユースの後に、残ったごみを資源化する取り組みをしている。生ごみは、半分堆肥化、半分バイオガ

ス化で、ほぼ全部が施設内で回るようになっているが、その結果は、今後データを見ていきたいと考えている。

- ・ そういう取組みはいろいろなところで進みつつあり、可燃ごみを減らすために、市民も含め、システムを考えていくことは大事だと思っている。

●座長

- ・ トータルシステムとして考えていくという視点は間違いないと思うので、いただいた意見を踏まえて整理したい。

●委員

- ・ 本文2ページで「焼却能力推計」を新たに定義しているが、年間であることを明記したほうがよい。
- ・ 検証委員会の中で説明を受けた際は、見込まれる故障日数等を含め、かなり精緻に算出していたと思う。
- ・ 「焼却能力」と言うと、トン／日で見るとケースが多いが、清掃一組はそれを「定格能力」という言い方をしており、実際の焼却量を「焼却能力」と言っている。
- ・ 細かい定義で算出されているので、意図がずれない範囲で加筆修正したほうがよいと思う。

●座長

- ・ 他自治体と清掃一組の焼却炉を比較・分析した際には、そのような違いもあったので、文章から読み取れるように工夫したい。

●委員

- ・ 丁寧に記載があり、非常によくまとまったと思う。
- ・ 本文12ページで、23区共同での取組みが進化してきていることを明確にしたうえで、資源循環の観点から、事業効率化にも触れたことは、検証委員会の答申としては良い方向だと思う。

●委員

- ・ 本文11ページと、12ページの減量施策の効果検証と見直しについて、同じような表現の繰り返しは気になるが、一旦決めたものでずっと行くのではなく、各区でゴミ減量対策を進め、先が見えたところで、逐次、整備計画、ひいては工場規模を見直す、という方向性はよいと思う。

●委員

- ・ 似たような表現が繰り返されている部分は、削除するか、あるいは意図があるのであれば、再掲であることが分かる文言を入れる等、表記の工夫が必要だと思う。

●委員

- ・ 先程の生ごみ処理機の部分など、概要版にも記載があるので、本編と概要版、あわせた整理をお願いしたい。

●座長

- ・ 意図して同じものを繰り返している部分について、確認のうえ整理する。
- ・ 修正箇所は全体を見直してチェックしたい。
- ・ 全体の意見を聞いて、修正の方向性は確認できたと思うが、事務局から何かあればお願いしたい。

■区長会事務局次長

- ・ 今いただいた意見は、いずれも最終的には座長、副座長と相談の上、反映できるものは反映し、案を作成する。

●座長

- ・ 最後に、委員の皆様から感想や意見等をお願いしたい。

●委員

- ・ 資料や議事要旨等の今後の扱いを確認したい。
- ・ 公共団体、自治体、国の会議は原則公開であり、今回のごみ処

理をどうするかという話は、区民全体に関わることなので、委員会がどんな議論をしてまとめたのか、まとめたものが何なのかは、早めに公開したほうがよいと思う。

●座長

- ・ここでの議論を、23区の各区の担当や、東京都等の関係者に伝えることにもなるし、可視化することによって23区が自ら変わっていくきっかけになればと思う。

●委員

- ・公開の範囲は、どの程度なのか。資料も公開の対象になるのか。

■区長会事務局次長

- ・第1回にて、資料は、議論の最中は非公開とさせていただきたいというお話を申し上げた。
- ・座長から答申を区長会へ提出いただき、区長会で最終的に施設整備計画を含めた方針を議論する。その議論が一定収束した段階で、これまでの経過を含めてまとめ、ホームページへ掲載する等、公開の段取りを考えたい。
- ・情報公開の一般的なあり方から考えると、各回の会議資料、会議要旨、最後の答申が公開の対象となると考える。

●座長

- ・ 前向きに検討をお願いしたい。

●委員

- ・ 区民に対し、「しっかりとごみ減量をすることが大事で、もっと協力してほしい」というメッセージを常に発信した方がよいと感じる。
- ・ 家庭ごみ有料化の実施にあたっては、区内での意見交換や、決定過程に大変時間がかかると思う。しかし、令和19年より早い段階から、方向性を各区で共有しながら、できるところから実施していく流れをつくることが大事であると感じる。

●委員

- ・ いろいろと申し上げさせていただき、大変勉強になった。
- ・ 答申を受け、区長会がどのような最終判断を行うかが重要だと思う。すぐに施設整備計画に移行する必要がある中で、難しい判断だと思うが、今後の見直しの体制をどうするか、ということも含めて、自分としても見守りたいと思う。

●座長

- ・ 本日の意見は事務局と座長、副座長で相談をしながら反映する。意見の反映・修正については座長・副座長にご一任いただき

たい。

- ・ ただし、修正後の答申については委員の皆様にもご確認いただき、確定したいと考えている。
- ・ 10月10日に私から答申を手交するという段取りになっているので、それまでに残った作業を、正副座長で責任を持ってやらせていただく。
- ・ 事務局から連絡事項があればお願いします。

■ 区長会事務局次長

- ・ 座長、副座長の指示のもと、近日中に修正したものを最終確認いただき、成案としたい。
- ・ 来月10日に区長会に提出することを座長にお願いしている。
- ・ その次の週の10月15日に区長会総会で報告し、区長会としての議論に入っていただきたいと考えている。
- ・ 今後の公開予定についても調整していきたい。

● 座長

- ・ 最後に、座長として発言させていただく。
- ・ 23区という国内でも極めて注目度の高い自治体のごみ処理の将来を、東京都から清掃事業が移管されて四半世紀のタイミングで検討する場を持てたというのは、大変意義のあることだったと思う。

- 委員の皆様のご経験、知見を活かし、活発に議論をいただいたことで、なんとか答申をまとめられたと思う。ご協力いただいたことに感謝申し上げます。
- 今後の23区の清掃事業の進め方を考えるうえで、良い機会になったのではないかと思います。
- ぜひ今回の議論を真摯に受け止め、23区全体で連携しながら取り組んでいただく契機となることを願っている。

以上